

但教委には湯かみのある対応をお願いしたい! (香川組)

市町教委と連携し次に生かすよう求める

今、それを削り、さらに
1コマを小学校では40分、
中学校は45分と授業時間を
短縮、詰め込みのような授
業になつていて。果たして
これが本当に学びの保障に
なつているのか

單に教科の保障だけではな
い。
子どもたちの教育活動で
は行事も大切。運動会や修
学旅行などが次々と中止にな
なつていて、特別活動は
教科と同じように意義があ
る。

発行所
高松市田村町1033-3
TEL (087) 867-4797
FAX (087) 867-6446
kakyoso@kakyoso.com
香川県教職員組合
定価 1部50円 1月100円
組合員の購読料は組合

香教組ホームページ
<http://kakyoso.com/>

「口ナ禍は、未曾有の危機だ」と、県教委の立派な文書が、学びの保障という前例のないことに關して、先生方は試行錯誤しながら、何がほどもにとつて最善かを考えながら、やつてくださつてゐるんじゃないかなと思つてゐる。

学びの保障でよかつたこと、課題が顕在化してくると思うので、状況を把握して、今後につなげていきたい。

もいろいろ課題があるだろ
う。だからこそ、今回の対
応を次に生かすようとする
のが組織としての県教委の
役割ではないのか。それぞ
れが、その場その場でやる
のではなく、組織として検
討して次に生かすことが重
要ではないか。

え、十分に検討しておいてほしい。そのためには実態調査が必要では。

2020年7月13日、香教組は夏季休業中の勤務について県教委と交渉しました。2093号に続き、コロナ禍においての学びの保障への対応や県教委の姿勢、1年単位の変形時間労働制などについて問いました。

概を感じさせてほしい。今日は、形式的なアピールだけに聞こえ、不安になつた子どもも大人も疲れている。組合長に任せている情報を集めているというだけではなく調整もしてはどうか。

組合 市町教委や校
組合 長に任せている情報を集めているというだけではなく調整もしてはどうか。

組合 市町教委や校
組合 長に任せている情報を集めているというだけではなく調整もしてはどうか。

「何が大切にされてるのか、疑問に思うようなことがこれまで起こっている。現場は一生懸命備えようとしているし、対応している。「〇〇していきたい」と思います」ではなく、「〇〇しています」くらいの感

うか」と言う。

間もない。消毒と下校指導に追われる毎日だ。子どもも大人も疲れている。

文科省からは省令を示されていない。当初のスケジュールから遅れている。何か（県として）結論が出てくるということではない。今後、検討していきたい。

県教委

組合

の方向か。

そこは、関係者に確認しながら対応したい。

られないという可能性もあるのか。

人間が教えたり教わった
りする。数（標準時数）だ
けではない。例年のこの時
期の生徒の様子とは明らか
に違う。

かる」「溝に落ちる」など自損事故が多い。体育の授業でもちよつとしたケガが多い。教職員は、「困った

小黒板

最近、子どもたちの様々な困難が個別の特性として注目されるようになった▼そのひとつに協調性運動障害がある。「行動がゆっくり」「運動が苦



満面の笑顔

9月入学よりも少人数学級が先!

今だから20人以下学級の実現を!

2月27日の全国一斉休業の要請から、約3ヶ月の休業。分散登校を経て、本格的な学校生活が始まりました。ソーシャルディスタンスと消毒。マスクの着用など新しい生活様式を余儀なくされ窮屈な学校生活を送っています。

文科省は、高校生のSNS上の発案を契機に広がった9月入学を4月に入つて検討しましたが時期尚早と断念しました。国際的には9月入学の国が多いこともあり、デメリットばかりとは言えませんが、拙速な導入は、学校現場だけでなく社会の混乱を招きます。元文科省事務次官前川喜平さんは、「これまで文科省内でも何度も検討してきた。しかし、様々な困難を解決する良い方法が見つからず、実現に至っていない」と話しています。「それよりも、今必要なのは少人数学級だ」としています。

多くの教職員が、「子どもたちを一人一人丁寧にみることができる」「子どもたちにもゆとりがみえた」などその良さを語っています。新型コロナウイルス感染症の終息も見えない中、感染予防のために分散登校が、少人数の良さを具現化・実感させてくれました。

署名は有権者の意思表示

7月20日教育祭実行会議
下学級の実現が望れます。
文科省は、来年5月をめどに提言をまとめる見通しです。

これまで、幾度となく少人数学級が議論され、文科省から予算要求がされました。が、財務省が認めませんでした。

未曽有の教育の危機です。今、子どもたち、教職員、保護者、関係者などで大きな世論に広げましょう。

香教組は、全教とともに、少人数学級化を求める教育研究者有志（世話人代表乾彰夫 東京都立大学）が進める「子ども一人一人を大切にする感染症にも強い少人数学級を」のネット署名に賛同しています。

香教組は、すべての子どもたちに豊かな学びの保障のために取り組んでいます。一人でも多く方の署名が求められます。昭和の条件の整備（少人数学級含む）を求める「全国教育署名」、過密肥大化した特別支援学校の設置基準の策定を求める「特別支援学校の設置基準を求める署名」、特別支援学級の過密を解消する「特別支援学級編制基準を見直す署名」などにも取り組んでいます。

香教組は、黒人差別に対する政治を動かします。昭和の終わり、保護者を中心とした40人以下学級の実現への強い願いが、大きな運動へつながり、たくさんの署名によって11年かけて義務化されました。教育すべての学年で実現しました。日本によつて11年かけて義務化されました。現代におまします。

す。

その他。文科省の概算要求に少人数学級の実現を求める声が強かつたといいま

す。

求める「えがお署名」、教育

条件の整備（少人数学級含む）を求める「全国教育署名」、過密肥大化した特別

支援学校の設置基準の策定

を求める「特別支援学校の

設置基準を求める署名」、

特別支援学級の過密を解消

する「特別支援学級編制基

準を見直す署名」などにも

取り組んでいます。

香教組は、すべての子ど

もたちに豊かな学びの保

障のため取り組んでいます。

それを、保障し、切り開

ていくのは私たち大人の責

任ではないでしょうか。

黒人差別に対して、多く

の芸能人やスポーツ選手が

声をあげました。世の中を

動かしています。私たち教

職員も、子どもたちのため

に、今だからこそ声をあげ

ましょう。みなさまのご協

力をお願いします。署名は、

香教組HPからもダウンロー

ドできます。お近くの組合

員か、香教組まで。

いては、世界の未来です。

それを、保障し、切り開

